

第3学年保護者様

加古川市立両荘中学校  
校長 神吉 直哉

## 全国学力・学力状況調査について

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握・分析し、改善を図ることを目的に、本年度は、国語、数学、理科の3教科が、4月19日（火）に実施されました。

以下の結果は、本校の現状を分析してまとめたものです。掲載している結果は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、この結果を基に、学校と家庭が連携しながら、これからの時代に求められる資質、能力の育成を図っていきたいと考えています。

## 1, 【学力調査の結果】各教科の正答率

正 答 率 (%)		
教 科 (項 目)	全 国	兵 庫 県
中学校国語	69.0%	69%
中学校数学	51.4%	53%
中学校理科	49.3%	49%

今年度3年生の平均正答率は、左記のとおりですが、本校の数学においては全国・兵庫県より少し高い正答率を示しました。

(優れているところ)

「国語」

- ・文脈に即して漢字を正しく書く。
- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す。

- ・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する。
- ・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う。
- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。
- ・事象や行為、心情を表す語句について理解する。

「数学」

- ・素因数分解や連立方程式などの計算を正しく理解し、解くことができる。
- ・多数回の試行によって得られる確率の意味を正しく理解している。
- ・証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を正しく理解している。
- ・「数と式」や「関数」の分野について正しく理解できている。

「理科」

- ・生物の体のつくりと働きを分析して解釈できる。
- ・過去の大地の変動について、自分の推論と他者の考察をふまえ、検討し、改善できる。
- ・予想や仮説と異なる結果が出る場合において、結果の意味を考え、観察・実験の操作や条件の制御などの探求の方法について検討できる。
- ・モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる。

(課題とされているところ)

「国語」

- ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。
- ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。
- ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。
- ・比喩などの表現の技法について理解する。
- ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く、資料の一部から話題や方向を捉えて必要な情報を引用し、自分の考えをもつという問題での無回答率が全国・県に比べて高い。

「数学」

- ・データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的に説明する問題の正答率が低い。
- ・箱ひげ図などのデータから分布の特徴を読み取る問題の正答率が低い。
- ・事象を数学的に解釈し、説明する問題の無回答率が高い。

「理科」

- ・化学変化に関する知識および技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識および技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみを分析して解釈する。

- ・物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明する。
- ・地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと路頭のスケッチを関連づけ地層の傾きを分析して解釈する。
- ・考察の妥当性を高めるために、測定値のふやし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうか見る問題では、無回答率が高い。

## 2 【生活状況調査の結果】

【優れているところ】(全国・県よりも10%以上、上回っている項目)

- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」に「当てはまる」と答えた生徒が約60%いた。
- ・人が困っているときは、進んで助けることができる生徒が多い。
- ・自然の中で遊んだり自然観察をしたりする生徒が多かった。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加しているか」は兵庫県、全国平均より大幅に多かった。
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考える生徒が多かった。
- ・放課後や週末は部活をしている生徒が多かった。
- ・自分の考えを発表する場面で、考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫した生徒が多かった。
- ・授業で課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ生徒が多かった。
- ・授業で各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめている生徒が多かった。
- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」に「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒が90%以上だった。

【課題となるところ】(全国・県の平均と比べて10%以上、下回っている項目)

- ・「家で自分で計画を立てて勉強しているか」に「あまりしていない」と答えた生徒が多かった。
- ・学校以外に1日あたり普段勉強する時間は30分以上1時間より少ないと答えた生徒が多かった。
- ・「新聞を読んでいますか」に「月に1~3回程度読んでいる」と答えた生徒が多かった。
- ・「読書は好きですか」に「どちらかと言えばあてはまらない」と答えた生徒が多かった。
- ・「2年生の授業でタブレットをどの程度使用したか」に「ほぼ毎日」と答えた生徒が全国の半数だった。
- ・「学校で自分の考えをまとめ発表する場面でICT機器を週1回以上使う生徒が多かった。
- ・2年生の授業で自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動をした生徒が非常に少なかった。
- ・総合的な学習で、自分で課題を立てて情報を整理し、調べたことを発表する学習に取り組んだ生徒が少なかった。

## 3, 今後の取り組み

【国語】

- ・「読むこと」の正答率が全国・県に比べて低くなっている。様々な分野の文章を読む機会を設け、筆者の主張や登場人物の心情を理解するための表現に注意させ、分析させる活動を通じて、学力の定着を図る。
- ・「話すこと」・「聞くこと」・「書くこと」の正答率が高いため、表現できる場を積極的に設ける。

【数学】

- ・全体的に「図形」の分野の正答率が他の分野に比べて低く、特に説明をする問題では苦手とする生徒が目立つため、基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指しつつ、問題の意図を理解しようとする姿勢を養う。
- ・さまざまなデータや資料を読み取り、説明する力を身に付けることが課題なので、授業内での意見交換や発表の場を増やし、数学的な表現方法を身に付けることを目指す。

【理科】

- ・「化学反応式」の正答率が国・県と比べ大幅に低くなっているため、基本的な知識の定着を図る。
- ・「生命」以外の領域の正答率が低くないので、生徒の興味を引く実験や観察を取り入れ、興味を持たせる。
- ・「記述式」での無回答率が高いため、自分の考えを「書く」機会を増やす。

## 4, 【考察】

今年の3年生は、地域行事に積極的に関わり、学校生活も落ち着いている様子が見えます。また、自分の思いや考えを言語で表現する資質や自分の決めたことはやり遂げたいという意欲を備えており、学習面をはじめいろいろな面で今後の成長が期待できます。一方で、指示したことは実行したり、行事にも参加していますが、主体的に意欲を持って参加したり、新たに企画したり創造したりすることに課題がみられます。

学習面においては、家庭における計画的な取り組みや授業の復習が十分に行われておらず、少し困難な問題に対してはすぐにあきらめてしまう傾向が見られます。今後は、学習面、生活面いずれにおいても、物事の本質を十分に理解し、何事にも主体的に取り組む意欲を育成する必要があると考えられます。